

## カンキツ樹における シカによる樹皮食害防止と樹皮再生促進法

近年三重県内のシカによるカンキツ樹の樹皮食害が深刻化しています。被害地域はカンキツ栽培地域全体に広がっていて、樹皮の食害による樹勢の衰えによる生産性の低下が経営上の問題になっています。そこで、樹皮食害防止対策と樹皮再生促進法について検討しました。

### ☆技術の概要

1. 食害対策として、カンキツ樹の幹に針金または生分解性テープを約 10cm 間隔でらせん状に巻き付けました。これにより処理後 925 日(約 2.5 年)以上シカの食害を防止することができました(表 1)。針金と生分解性テープの使用量は成木 1 本当たり 20m で、設置時間は約 15~25 分/樹かかりです。経費は生分解テープで約 100 円、針金で 150 円/樹かかりです。
2. シカによる樹皮食害後に樹皮の再生を促進するために、被害部分に樹脂製塗布剤を塗りアルミ箔で被覆します。約 3~6 ヶ月後に樹皮が再生します(表 2、写真 1)。
3. 樹脂製塗布剤処理は、被害後なるべく早いほうが樹皮の再生が高まります。

表1 シカによるカンキツ樹皮の食害面積割合の推移

処理区	樹当たりの樹皮食害面積割合 (%)		
	370日後	686日後	925日後
針金	0.3	0.3	0.3
生分解性テープ	2.6	3.0	3.0
無処理	4.6	9.6	10.3

※早生ウンシュウ成木の主幹及び亜主枝における食害面積割合を達観

表2 樹脂製塗布剤処理105日後の樹皮の再生程度

処理区	樹皮再生面積割合 (%)
樹脂製塗布剤	76.8
樹脂製塗布剤+アルミ箔被覆	97.2
無処理	22.4

※カンキツ樹の主幹の樹皮部分を剥皮 (7.4cm<sup>2</sup>:1処理1カ所/樹) し、剥皮部分に上記に処理を行い、処理105日後に調査を行った。

写真1 処理105日後の樹皮再生



### ☆活用面での留意点

1. カンキツのシカによる樹皮食害発生地域に導入できます。
2. 樹の成長により針金が幹に食い込む恐れがあるので、巻き付けは余裕を持たせ、1~2年に1回は針金が幹に食い込んでいないか点検する必要があります。
3. 生分解性テープと樹皮の間にカイガラムシ類の発生が見られたら防除を行います。
4. 生分解性テープが巻きにくい株元部分もシカが食害するため、ネット等で根元を覆います。詳細については、三重県農業研究所 紀南果樹研究室 (電話:05979-2-0008) にお問い合わせください。  
(農研機構 果樹茶業研究部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)